



戦争で得るものは何もない

河登 一郎

・現在世界は二つに大きく分断されている。

1) 一つは、アメリカ・欧州・日本を中心とした「民主主義・市場経済」を基軸とする体制。

いわゆる G7 が中心。従来はこのグループが中心になって世界を引っ張ってきた。



2) 21 世紀に入って、BRICs (ブラジル・ロシア・インド・中国: s は複数を表わす s) が、南アフリカが加わって新 BRICS (S は南アフリカの S) と、この 5 カ国以外にも積極的に呼びかけ、6 月に開かれた「新 BRICS 首脳会議」には、この他イラン・トルコ・アルゼンチン・エジプト・インドネシア・カザフスタン・エチオピア・カンボジア・タイ・マレーシアが参加した。

・G7 は人口 8 億人; GDP は 42 兆ドルだが、新 BRICS は人口 41 億人と 5 倍強; GDP は 30 兆ドルと若干下回るが世界の 1/3 に達し、その上石油・天然ガス・石炭の埋蔵量は世界の 2/3 を超え、レアアースや化学肥料原料のカリ・リンでも 70%、穀物生産は 52% を占める。

すべてが反米・親中ソで固まっているわけではないが、独裁・軍政の国が多く、米英主導で民主化要求を突きつけられ、外交パージを受けている。

・新 BRICS 内の相互補助関係も無視できない。G7 や欧州が買わなくなりだぶついたロシアの原油・石炭をインドが安値で購入したり、インドがエジプトに対して 50 万トンの小麦を緊急輸出したが、その分をロシアが穴埋めしたり、新 BRICS 内で連係プレイが成立した。

・「新 BRICS 通貨バスケット」: アメリカの連邦準備制度 (FRB) や欧州中央銀行は、中ロ主導の新しい基軸通貨制度を警戒している。ロシアが国際銀行間通信協会 (SWIFT) から排除された後、人民元建取引が急拡大し、アメリカの金融支配に風穴が開きつつあるが、新 BRICS 通貨が利用されるようになればドル・ユーロと並立する利便性を持つ。

○そして、欧州ではロシアによるウクライナ侵攻で、現実に戦争が起きており、何万人もの尊い命が失われている。その他民間の施設が多数破壊されている。

・一方アジアでは台湾を巡って米中の関係がにわかに緊張の度を加えてきた。

○我々の希望としては、「どうぞ核戦争にはならないで欲しい」。核戦争にならなくても戦争が起きれば生命が失われることは同じである。

・それにしても第 2 次世界大戦の末期、瀕死の日本に対してアメリカは原爆を 2 度も投下したのである。ロシア (当時ソ連) は 2 度の原爆を確認したあとで、「日ソ不可侵条約」を一方向的に踏みにじり日本に武力侵攻を始めた。両方とも許しがたい暴挙であるが、日本政府はこれに対して抗議したことはあるのだろうか。私は寡聞にして知らない。

・台湾は、極力「有事」にならない努力が必要だが、中国・台湾・アメリカいずれも非常に強気である。万一戦闘が起こった場合、日本はどうすれば良いか。

・気持ちとしては是非参戦すべきだとは思っている。しかし、この参戦には非常なリスクが伴うことを冷静に考慮しなければならない。多くの若い命が失われることだけでなく、沖縄が再び爆撃され、内地の我々さえミサイル攻撃で命を失う可能性もある。